

池坊中央研修学院 総合特別科

各研究室・特修クラス 受講内容

各担当者の授業カリキュラム、研究内容をお読みの上、お申込み下さい。

- ◎ 研究室は1年間で4期
特修クラスは2年間で（平日コース8期）（土日コース10期）開講いたします。
- ◎ 研究室は1研究室につき最長3年間の受講が可能です。研究室によっては3年間のカリキュラムを掲載しております。（特修クラスは制限なし）
- ◎ 研究室については、誕生日が昭和30年1月1日以前の方は、決められた職位を取得していることが必要です。（特修クラスは年齢制限なし）※別紙参照
- ◎ 応募者が20名以下の場合には開講いたしません。開講されなかった研究室・特修クラスに申込みれた方は、発表後、別の研究室・特修クラスへの振替が可能です。

**締切日 2016年1月15日(金)(当日消印有効)以後は、
いかなる理由であっても受け付けできません。**

【 研 究 室 】 古典立花研究室



三浦 友馨

あと2年で閉講となる当研究室では、立華十九ヶ条をはじめ、伝花に触れたい人、将来、自ら大作を立てる事を目指す人等に立花の心と技を身につけていただきます。

| | 1年目 | 2年目 | 3年目 |
|-----|---------------------------------------|------------------------|---------------------|
| 第1期 | 大作実習と幹造りの オリエンテーション 松真立花(三ヶ所遣い) | 桜一色(垂桜) 一株砂物 | 受流枝(檜柏真) 左流枝(桧真) |
| 第2期 | かきつばた一色 蓮一色 | かきつばた一色(株分) 蓮一色(株分) | 二つ真 一草立花 |
| 第3期 | 中段流枝 受上り内見越 | 歯朶の前置 万年青の前置 胴束 | 三段枇杷 合真 |
| 第4期 | 松の胴 松の前置 | 二株砂物 松一色 | 谷越真 谷渡真 |



秋野 仁

先人の残した知恵と心と技を古書や絵図を通して学び、今日の目まぐるしく変化する時代世相に対応できる立花の研究を目指します。

- それぞれの時代や先人の作風を通して、立花の本質を学び、創作性を養います。
- 幹造りを通して、松の使い方を学び、ドリル等道具の使い方を習得します。
- 胴束等、小振りの作品にも挑戦し、狭い空間に生かせる立花を学びます。
- 二作目からは再利用できる花材は再利用し、花材を無駄なく生かします。
- 今日的な花材も使って、立て花にも挑戦し、現代感覚を養います。

立花の苦手な人や、立花をもっと勉強したい人等、経験の多少は問いません。憧れの古典立花と一緒に勉強しませんか。絶対に後悔はさせません。お待ちしております。

【 研 究 室 】 立花研究室



中村 福宏

今日、立花は大きく二つに分かれました。立花正風体と立花新風体です。私の研究室では、立花正風体を基本として立花新風体へ進み、立花の総合的な考え方を研究していただきます。

- ・ 立花の変遷(成り立ちから今日まで)
- ・ 正風体の基本から応用へ
- ・ 新風体の基本的な考え方から、自己の新風体を極める
(生け方からいかす表現へ)
- ・ 各自の個性を尊重し、感性を磨く



森部 隆

草木を立てることで、自分のなかに新しい自分を発見する。この喜びを原動力に、次世代へ夢や感動を与えられる立花を目指す研究室です。

- 心 池坊の美感、精神の根源を古書より学び、規矩性を再確認。正風体と新風体の違いを明確にし、各々の魅力を探る。
- 技 四季、花器、場所に応じ、立てる技術を修得。込藁の作り方から砂物、小品、大作まで多角的に実習。今までの知恵や経験を生かしつつ、新しく。
- 体 立花を内外にアピールできるよう「教えやすく習いやすい」理論と実習にも取り組む。自分なりのこだわりを見つけるのが、池坊人の醍醐味です。

一人では難しいことも、共に助け合う雰囲気大切に、じっくりと。花と人との出会いが、私達の人生をいきいきと輝かせてくれます。ともに夢咲かせましょう。



小林 清高

立花は「松に始まり松に終わる」のではないのでしょうか。松は立花において最も重要な花材であり、多くの伝花のモチーフにもなっております。当研究室では今一度この松という素材に注目してみたいのです。

- そこでまず一作目は、可能な限り松を使用し、従来の和物を中心とした基本的な立花正風体を勉強します。
- 次の二作目は、一作目で使用した松などの花材を再利用し、今度は如何に現代感覚を取り入れ、今日的にアレンジしていくかを試行錯誤しながら挑戦していきます。ここでは花材も和物にこだわらず新しい世界を目指します。当研究室の特色をこのあたりで出せればと考えております。
- あとは一、二作目とは全く異なる現代生活にマッチした立花新風体と取り組んでいきます。

以上、五日間を基本的に三部構成で進めてまいります。

【 研 究 室 】 立花研究室



西田 永

一輪の花、一枝一葉のはずむ姿に思いを寄せ、自然の美しい景色や心象をその様式に昇華する立花の心と技は、優れた先達のたゆまぬ研鑽と努力によって受け継がれ、多種多様なステージで時代に生きた幾多の人々の心を満たしてきました。

長い間の集積の中、立花は「たてはな」から「新風体」へと展開してきましたが立花様式がもつ柔軟な適応性（表現と構成）を考察するとともに、現代の多様な環境に対する更なる可能性を追求してみたいと思います。

研究内容(全期共通)

- ・ <基礎から応用> より高い完成度と創造性をめざすための基礎力の強化
- ・ <立花正風体> 伝統的美感と構成
- ・ <立花新風体> 立花の創造性と今日的環境への適応



清水 新一

「立花を立てる事が好きで、その時間が最も楽しい。」と感じているのは、私だけではないと思います。その上、立花を立てる本来の楽しさを見出し、満足のいく花を立てようと努力する自分や仲間に出会えれば最高です。

当研究室では、まず池坊の伝統的な美感を育てることを大切に考えています。その為に、花材の選定や構成などを考察することが重要と考えます。その上で、それらと現代の社会状況、花材事情との調和を模索していけば、古典では為し得ない、より幅広い新しい美の追求が出来るのではないかと考えます。

<立花正風体>

構造を理解し、伝統的な美感を養う。より指導し易く、習い易い立花を模索する。

<立花新風体>

現代の社会状況や花材事情を踏まえながら、現代人の感性を刺激する花の極限に迫る。

経験の多少に関わらず、一人ひとりのペースで無理のない歩みの中から、自分自身で納得のいく花が立てられるように共に勉強していきましょう。



龍 徹

「立花には、魔力がある。」

立花を始めた人はその虜となり、いけばなから決して離れないと言います。それほど立花には不思議な魅力が備わっています。池坊の伝統的美感には、「和と美の精神」が流れ、形式美、花材の出合いと扱い等があり、研究室では、基礎的な感覚を磨いていただき、品格のある立花を目指していきます。

<立花正風体>

規矩性を守りながら、草木美の見方、捉え方を学び、何処でも、どんな花材にも対応できる立花を考えています。

<立花新風体>

今日の流れの中で、一人一人が考え、育んでいくことを主体に個性を尊重していきます。

短い花の命だからこそ、瞬時の美に情熱を傾けていきたいと思っております。

【特修クラス】

【京都】2年制平日コース(全8期)

【東京校】2年制土日コース(全10期)

※東京校では「古典立花専攻」の募集はありません。

担当講師は、中央研修学院の特命教授・教授・准教授があたります。
下記に紹介している内容の他、講師が自ら得意とする分野や季節、前回のカリキュラム等を考慮した上で、毎回独自のカリキュラムを用意します。

カリキュラムは授業予定日の約1ヶ月前に郵送します。
特修クラスは每期違う講師が授業を担当しますので、色々な先生から学ぶことができるのも特徴です。

| | | |
|-----------------|---|---|
| <h2>古典立花専攻</h2> | <ul style="list-style-type: none">・ 古典を訪ねて・ 幹造り立花の基本・ 専好の作風を学ぶ・ 専養の作風を学ぶ、など <p>※ 特修古典立花専攻の申込みは総合特別科 (古典立花研究室・立花研究室・特修立花専攻) を一度でも修了された方に限ります。</p> |  |
| <h2>立花専攻</h2> | <ul style="list-style-type: none">・ 立花正風体と立花新風体・ 立花新風体への糸口・ 古典を訪ねて・ 幹造り立花の基本・ 立花正風体(水仙一色)、など |  |
| <h2>生花専攻</h2> | <ul style="list-style-type: none">・ 生花の本質 生花表現における不易と流行・ 生花正風体(一種・二種・三種の表現)・ 紅葉の美学・ 生花五ヶ条 草木出生の据え方・ 変化形について(向掛・横掛)、など |  |
| <h2>自由花専攻</h2> | <ul style="list-style-type: none">・ 植物素材の見方、主材の決め方・ 自由花における発想と表現・ 環境(TPO)への適応 (タペストリー、置き、掛け、釣り)・ 自由花の花器と形との関連性・ 自由花の花器と色彩との関連性、など |  |

【 研 究 室 】 生花研究室



竹内 稔晴

おだやかな四季の廻りの中で日本人は自然と共に生きてきました。一木一草はその中で美しい花を咲かせ、けなげに命を全うし私達を幸せにしてくれています。自然の草木に感謝しながら池坊の生花の世界を考えてみたいと思います。

伝書をもとにその季節の美しい草木と一緒に愛でながら、伝花を始め生活環境における様々な形式も研究し、明日に向かっての生花を考えていきます。

生花の基本的なことから展開し、生花の伝書もカリキュラムに組み入れ研究していきます。現代空間を彩る自由花同様、現代の空間における生花の可能性も追求していきたいと思います。



中村 福宏

生花は池坊いけばなの中で、最も簡略された中に草木の命の響きを表現する花型です。少ない役枝を通して表現しますが、大切なことがたくさん集約されている花型です。

生花の持つ格調美をしっかりとつかみとり、今日の適応性を考え自己の感性を磨いていただく研究室です。

- ・ 生花の成り立ちから、今日までの過程
- ・ 生花における伝書に基づく研究
- ・ 生花正風体と新風体との総合的な研究
- ・ 今日の環境、その他、それぞれの適応性を考える



井口 寒来

生花の凛として水際から立ち伸びるシンプルで美しい草木の姿が、また生命の映発する輝きが、私達を感動させます。そして、引き算の美学といわれる「数少なきは心深し。」というギリギリの命の省略美も生花の魅力の一つです。

生花が大好きな皆さまと共に学んでいきたいと思っています。ぜひご参集ください。

カリキュラム内容

- 生花正風体(一種生、二種生、三種生)
 - (1) 生花の歴史(専養、専純、専定、専明、専正)
 - (2) 伝花の理解と研究(生花五ヶ条、生花七種伝、他)
 - (3) 変形(掛生、釣生、二重生などの草の花)(生花別伝)
 - (4) 交生、株分
 - (5) 三種生の現代的な活用
- 生花新風体(明日への展開)
 - (1) 今日的な生花(花材、花器、環境への適応)
 - (2) 新しい株分、掛花、釣花の研究

【 研究 室 】 自由花研究室



竹内 稔晴

現代の生活環境の中で気軽に飾れるいけばなとして、自由花は大変重要な位置にあると考えます。また個性的で美しくありたいと願う現代の私達には、創造力・表現力は大切な事です。その美しい自分らしさを表現する手段として、自由花はもっとも相応しい世界です。

当自由花研究室は、つねに個性と表現のある作品を目ざしています。授業では、暮らしの中の自由花や、いけばな展にも対応できる中作、大作、又特殊な構成のレリーフ、モビール、タペストリーなどもカリキュラムに取り入れながら進めます。

自由花にかかわる基本的な造形原理等と共に基礎を解り易く、資料なども提示しながら皆で考えながら研究致します。

表現では自然的表現はもとより非自然的表現での様々な世界も体験し、より広い美を深く研究しながら、それぞれに個性ある作品を目ざします。

制作においては、自由花の特質を十分に活用しながら実用的な手法なども経験して頂きたいと思ひます。

自由花で素敵な自分流をいっぱい表現出来るようになりますように。



野田 学

池坊専永家元が示された「形より姿」の教えを念頭に、多様な環境にマッチする自由花を楽しむ研究室です。

作者や草木の個性を尊重する研究室として、自由花が大好きな方はもちろん、自由花が苦手な方も、フリースタイル（自由花）の世界を広げたい仲間を募ります。

自由な表現のための素材、構成、手法、等を研究室生と共に創意工夫していきたいと願っています。

□ カリキュラム内容

- ・ 池坊自由花カリキュラムの活用法
- ・ 置：花留の工夫、等
- ・ 掛：レリーフ、タペストリー、等
- ・ 釣：モビール、等
- ・ 「形より姿をいける」ミニチュア自由花
- ・ 他



小林 義子

「花は心の形である」専永宗匠のお言葉です。色々と異なった見方や考え方があるからこそ人の美感も磨かれ高められて無限に広がってゆくと思ひます。

「輪・和・Wa」を研究室のテーマとして和気あいあい楽しんでいきます。

これからの池坊自由花と一緒に研究してみませんか。

研究内容

- ◎ 自由花のルーツである『花王以来の花伝書』の考察 —— 置、掛、釣
 - レリーフ、タペストリー
 - モビール
 - ミニチュア自由花
 - 暮らしの自由花の発想と考え方
 - 花展の自由花の考え方

- ◎ 指導者としての自由花の指導法を探究